

中国語の環

第126号

『中国語の環』編集室編 2024年4月

- 目次
- 9 巻頭のことば “感到不安”は「不安を感じる」か？
 - 10 中国語でどういう？ 行こうが行くまいが勝手にしなさい
 - 11 例文で読み(=解き)ほぐす中国語文法
Lesson 10 ベアを求めて… (その3)
 - 12 語彙学習の話 接辞について
 - 13 紛らわしい文法表現 “你来做饭”と“是你做饭”
 - 15 看图学汉语 我的一天
 - 17 中国語と文化 遣唐使も苦勞した中国語の舌の動かしがた
 - 18 中国語の文法は面白い 中国語の形容詞命令文(1)
 - 19 読者の広場 一人よりみんなと勉強したほうがいい

ひとことエッセイ

4字成語にピンインを振る場合、従来は“臨陣磨槍”(lín zhèn mó qiāng)、“強人所難”(qiǎng rén suǒ nán)のように4字バラバラに離して振るのが普通であった。ところが、《現代汉语詞典》はその第6版(2012年6月刊)から前者はlínzhèn-móqiāngと2字ずつに区切り、後者は区切らずにqiǎngrénsuǒnánと4字ひとまとめに振るようになった。文法構造を考慮したもので、一理あるものと考えて中検もこの方式に従っている。

ただわたくし自身は、“臨陣磨槍”のような並列構造のものを〇〇-〇〇とするのはよいが、“強人所難”のほうは「動詞+目的語」構造であることを考慮して〇-〇〇〇としたほうがよいのではと考えている。“步人后尘”“貪天之功”“投其所好”なども同様である。“马不停蹄”“狗仗人势”など主述構造のものにも〇-〇〇〇型のものが散見する。また、“旁观者清”のような〇〇〇-〇型のものも、わずかではあるが存在する。

そこで、近刊の『中国語成語辞典』第2版(白帝社, 2024年4月)では、これらの型を取り入れてみた。ご意見を聞かせていただければ幸いです。(上野 恵司)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

“感到不安”は「不安に感じる」か？

理事長 内田 慶市

ことは日本は新年早々大変な災害に見舞われました。

こうした災害がある度にこの国は本当に大丈夫かと「不安」に思ってしまうことが、きょうはこの「不安」という言葉について考えてみることにします。

唐突ですが、わたしが魯迅に最初に触れたのは大学2年の時。当時の日本の大学は大学紛争の嵐が吹き荒れており、バリケードストライキで授業もほとんど行われませんでした、そんな中で、何人かの仲間と一緒に「自主ゼミ」を立ち上げてそこで魯迅の『呐喊』や『朝花夕拾』を読み進めていきました。

それから何年も経ってから最初の勤務校でも毎週、魯迅の読書会をやりましたが、それに参加されていたある高校の先生が面白い質問をされました。それは『朝花夕拾』の「藤野先生」の中の以下の文章でした。（ちなみに、「藤野先生」はわたしの故郷福井県のあわら市の出身で、あわら市には藤野巖九郎記念館がありますし、福井市の足羽山には「惜別」の碑もあります。）

“我拿下来打开看时，很吃了一惊，同时也感到一种不安和感激。”

この文章の“感到一种不安和感激”に対応する日本語の訳は「一種の不安と感激を覚えた」となっています。これに対してその高校の先生は、藤野先生は親切に魯迅のノートを添削してくれたのに対して「感激」は分かるが、なぜ「不安」に感じるのでしょうかということでした。

確かにその通りだと思いました。何故「不安」なのか？

しかし、中国語でよく使われる“感到不安”を思い浮かべれば実は即座に解決します。人から何かしてもらった時に言う言葉ですが、日本語にすれば「恐縮です」とか「申し訳ない」となるでしょう。魯迅のこの部分もわたしはやはりそう解釈すべきだと思います。つまり、「同時にまた申し訳ないという気持ちと感謝の気持ちを覚えた」ぐらいでしょう。実は“感激”もそのまま「感激」では問題かも知れませんが、ここではそれ以上は触れません。

日本人は中国語を学ぶことにおいて欧米人よりは有利な点があります。それは同じく漢語を使っていること、また同形語が多くあるということです。しかし、長所は一方で短所にもなります。特に日中同形語については十分気をつける必要があります。例えば、“手紙”が「手紙」ではなく「トイレットペーパー」だというのはよく言われることですが、他にも“深刻”“质问”“约束”“校长”“亲友”“高等学校”などうっかりするとそのまま使ってしまう言葉も沢山あります。また“最近”などのように意味は同じですが、使い方が違うような場合もあります（中国語では“最近你要看什么电影？”“这个戏最近就要上演了”のように将来の現在に近い時にも使われます。）こういったことにも注意を払って中国語を学んでいきたいものです。

行こうが行くまいが勝手にしなさい

張 勤（中京大学）

ある会合や就職面接などに行ったほうがよいのではと親友に親身に勧めるが、なかなか受け入れてくれず、説得に疲れてしまい、とうとう勝手にしなさいと叫びたくなってしまった。そのような捨て台詞は、中国語なら、“愛+動詞+不+同じ動詞”がピッタリだ。

(1) **愛去不去，我不管了。**（行こうが行くまいが勝手にしなさい。もう気にしない。）

(2) A：还是给他写一个E-mail吧！（やっぱり彼にメールを書いたら？）

B：我可不写。她怎么不给我联系？（書きはしないよ。彼女からはどうして連絡をくれないの？）

C：**你爱写不写。看她怎么收拾你！**（書こうが書くまいが勝手にしなさい。彼女が君をどう懲らしめるか見てみよう！）

(1) (2)は相手へのアプローチを諦めたヤケクソの表現だが、(3)はやや異なる。

(3) A：这件事不好说，你想怎么理解就怎么理解吧！（このことは言うのが難しい。好きなように理解しなさい。）

B：**你爱说不能说，我懒得动脑子。**（言おうが言うまいが勝手にしなさい。わたしは考えるのが億劫なんだ。）

(3)は対話の流れに相手へのアプローチがないが、(1) (2)とともに、口先だけかもしれないが、相手を突き出し、もう関わりをしないよという態度を示すものである。

(1) (2) (3)では相手との関連を持つとする意味合いが根底にあるとすれば、(4)にはそういうニュアンスがなく、相手の行動が「どうでもよい」という態度だ。

(4) **现在，有的新戏，锣鼓震天响，丝毫不顾观众听觉感受，从业者还理直气壮：“这就是我们京剧，你爱看不看！”**（こんにち、観客の聴覚的感觉を少しも顧みず、大音量の銅鑼や太鼓を鳴らす新しい芝居がある。関係者はまた「これが我々の京劇だ。見ようが見まいが勝手にしなさい」と理があるように勢いよく言う。）

上の例のように、この“愛+動詞+不+同じ動詞”の表現は（もう）関わりをしないよとストレートに示すものなので、目上の人や親しくない相手に使うと丁寧さが欠くことになってしまう。これまでの例はいずれも相手を主語とする表現だが、次の例は第三者の行動を伝えるもので、これまでの例と意味合いが異なってくる。

(5) **在所谓的中国文化圈之中，大概没有哪一位能像王朔这样长时间地成为人们关注和争议的对象。也难怪，这么个经常惹是生非的人，人们爱看不看总得瞧上几眼呀。**（いわゆる中国文化圏において、王朔ほど長い間注目され、物議を醸した人物はいないだろう。好むか好まざるにかかわらず、これほど常に問題を引き起こしてきた人物に、人々が目を向けざるを得ないのも無理はない。）

主語が第三者になると、「…を好むか好まないか」といった意味になる。

Lesson10 ペアを求めて…（その3）

古川 裕（大阪大学）

中国語には単独＝シングルでは不自然な表現でも、ペア＝ダブルにすると安定して自然になるというおもしろい現象があります。その証拠に、中国語にはペアすなわち「対（つい）」の形になっている表現が単語、フレーズ、そして文のレベルに至るまで数多く見られます。

前回は“前：后”“上：下”“左：右”“里：外”“南：北”“东：西”“横：竖”などのペアを見ました。これらは空間表現の反義語どうしなので、ペアになることが予想できるのですが、中国語には日本語や英語など他の言語では思いつかないようなペアもあります。たとえば、中国語には下の例（1）のような表現があります。

(1) 这孩子长得鼻子是鼻子眼睛是眼睛。

この文に使われている単語はすべて常用の基本単語ばかり、文法も難しくなさそうなのに、いざどんな意味なのかを考えると困ってしまいます。直訳してもナンセンスで意味をなしません。なんと、これは子供の顔立ちが整っていることを言っているのです。ちなみに日本語でも「目鼻立ち」とか「目から鼻へ抜ける」「目糞鼻糞を笑う」のように「目」と「鼻」をペアにして言うことがありますが、中国語では順番が逆で“鼻子→眼睛”の順に言うのも面白い点ですね。では、両言語でなぜ違う順番になるのか。その答えは、この連載の続きのお楽しみにしておきましょう。

また、次の例も一見やさしそうで、実は理解するのがなかなか難しい表現です。

(2) 看人家多有钱，房是房，车是车。

この文は「あいつは金持ちで、家も車もちゃんと持っている」とでもいうような意味で、これはまさに現代中国の社会通念や価値観を反映する表現で、お金持ちの必須アイテムである“房（子）”（持ち家）と“车”（自家用車）がペアになっているのです。そんな意味は“房（子）”や“车”の意味を辞書で調べてもどこにも書いていないし、たとえば50年前だったら、そもそもこんな表現もなかったはずです。

この二例に共通する大事な点は、“鼻子”と“眼睛”，“房”と“车”のどちらか一方ではなく、必ずペアにして言わないと中国語として成立しないということです。

(1) * 这孩子长得鼻子是鼻子。* 这孩子长得眼睛是眼睛。

(2) * 看人家多有钱，房是房。* 看人家多有钱，车是车。

このように見てくると、中国語の慣用表現や諺も対句になっていることが多いことにも気がつきます。たとえば、空間表現のペアとして前回、下の（3）を紹介しましたが、現代中国ではこれをネタにして（4）のように言うのも、対句すなわちペアの安定性がこの言葉遊びを支えているのです。

(3) 上有天堂，下有苏杭。（天に極楽，地に蘇杭。）

(4) 上有政策，下有对策。（お上は政策，庶民は対策。）

接辞について

沈 国威（関西大学）

現代中国語を特徴づける最大の変化は、接辞（中国語は“**词缀**”と呼ぶ）の発達である。接辞は語の文法的性質を変えたり、類型的な意味を付け加えたりする付加成分である。中国語は形態変化のない孤立語で、接辞はそもそも少ないと言われている。“**老-、阿-；-子**”などの旧接辞があるが、主に口語に用いられ、しかもすでに造語力を失っている。一方、西洋の近代新概念を翻訳する過程で、漢字接辞が活発化した。“**化、性、感、论、式、的、点、率、炎、界、观、法、力、型、线；作用、问题、时代、社会、主义、阶级**”など“**新词缀**”と呼ばれる一群である。“**新词缀**”はまず日本語で勢力を拡大し、20世紀に入ってから中国語をはじめ東アジアの諸言語に影響を与えた。そのうち“-化”は名詞、形容詞を動詞に変えるのに対して、“-性”は、名詞が持つ性質を抽出し、類型化することにより、名詞を属性詞に変える。“-性”はまた“**安全+性、便利+性**”のように形容詞を抽象名詞化することもできる。元々形容詞だが、“**性**”を加えると程度副詞の修飾を受けられなくなる。

“-化、-性”以外のものは、接辞に類似する成分に過ぎないという理由で“**类词缀**”と呼ばれることが多い。筆者は、2字語ではなく、3字語においてのみ漢字接辞を認めるという立場である。つまり1+2と2+1の「1」しか接辞となり得ない。1+2の場合は、“**非金属、不道德、无条件、新世代、干电池**”のように否定か限定の意味を表す。一方、2+1の場合は、類別の意味を付け加える。例えば、人なら“-手、-员、-者、-家”，機械なら“-机、-器”，物なら“-品、-料”などである。このように分類することによって、概念の爆発的増加に対処することができる。したがって“**类词缀**”を“**分类词缀**”と呼ぶべきであろう。

現代中国語の接辞成分は、発生上日本語の影響を強く受けたが、その後独自の発展を遂げつつある。現在日中両言語の接辞は、下記のように共通部分もあれば、異なる部分もある。

- 共通の部分：**大批判、公务员、存在感、劳动者、自由度、大气圈、火山带**
- 日本語だけ：**大歓迎、銀行員、安心感、科学者、首都圈、情報源、解決策、男女別**
- 中国語だけ：**大奖赛、牛仔褲、排行榜、手续费、旗袍控、艳照门、民国范**

今後、文化交流によって共通部分が徐々に拡大するであろうが、それぞれの言語環境で独自のものが増えることも考えられる。

では、接辞はなぜ重要なのか。日本語能力試験の語彙リストには、接辞と接辞成分が100以上リストアップされているし、中国語の国際中文教育語彙リストにも80以上収録されている。しかもいまも発生し続けるのである。接辞成分の増加により、1+2；2+1という形の3字語がさらに増えるであろう。この意味で、接辞成分をしっかり押さえることは、語彙量の拡大に繋がるであろうと確信する。

“你来做饭”と“是你做饭”

魯 曉琨（文京学院大学）

中国語では自分側の人を第三者に紹介する際、よく“我来介绍一下”を使います。そのため学習者は早い段階でこの使い方の“来”に出会います。学習者は「来る」という動作がないのになぜ“来”を用いているのかという疑問を抱いています。文法書や教材では、この“来”は動作者が積極的に動作を行うことを表していると解釈されています。この解釈は、“我来介绍一下”のような動作者が第一人称である文では当てはまりますが、以下の(1)(2)のようなケースでは当てはまりません。

(1)我洗衣服，你来擦地。

（私が洗濯するから、あなたは床を拭いてね。）

(2)你太累了，让他来干吧。

（あなたは大変疲れているようなので、彼にやらせてください。）

例(1)では“你”が積極的に床を拭きたいとは、(2)では“他”が積極的にやりたいとは読み取れませんね。

それでは、この“来”は一体どのような役割を果たしているのでしょうか。

実はこれらの“来”は省略することができます。

(3)我介绍一下。

(4)我洗衣服，你擦地。

(5)你太累了，让他干吧。

“来”がなくても(3)(4)(5)は成立します。とはいっても“来”を加えることはけっして無駄ではありません。

“来”が使えるのは、あることを行うことが可能である動作者が二人以上いる状況において、話し手が「誰がそのことを行うか」について話す場面です。“来”がなくても動作者を提示することはできますが、“来”を動作者の後に置くと、話し手が動作者にフォーカスを当て、動作者以外の人を排除するという意味が加わります。“我来介绍一下”を言うときは、少なくとも3人います。AがBをCに紹介するときに、Aは“我来介绍一下”と言うと、B自身ではなく、私（A）がBのことを紹介するというニュアンスが含まれています。4人以上いる場合、紹介される人自身だけではなく、その場にいる動作者以外の人を全部排除するという意味を表します。また(1)では、“擦地”の動作者から私を排除し、(2)では、“干”の動作者からあなたを排除しています。要するに“来”はフォーカスマーカーとして使われています。

フォーカスマーカーというと、“来”より広い範囲で使われる“是”があります。例えば、

(6) a 小王明天出差。

b 是小王明天出差。

c 小王是明天出差。

d 小王明天是出差。

例(6)a “小王明天出差” は一般的な表現ですが、“是”を用いて、(6)b では主語である動作者“小王”に、(6)c では状況語である時間“明天”に、(6)d では述語である動作“出差”にフォーカスを当てています。ここでは(6)b に絞って話を進めていきます。

“是”も“来”と同じように、動作者にフォーカスを当てるといふ働きがあります。形式上、“是”は動作者の前に置かれ、意味上も“来”と違います。“是”が用いられる文脈を見てみましょう。

(7)甲：小张明天出差，我们就更忙了。

(張さんが明日出張に行くと、私たちはさらに忙しくなります。)

乙：是小王明天出差。

(明日出張に行くのは王さんですよ。)

(8)甲：田中今天又打小林了吧？

(田中君は今日また小林君を殴ったの?)

乙：是山下打小林了。

(山下君が小林君を殴ったのです。)

例(7)では出張する動作者、(8)では小林さんを殴った動作者について、甲が間違っただけの情報を持っています。乙は“是”を用いなくても正しい動作者を提供することはできますが、“是”を動作者の前に置くことによって、動作者にフォーカスを当て、間違っただけの情報を訂正する意味を付け加えたのです。(7)では、“小张”を排除し、(8)では“田中”を排除したのです。

以上をまとめると、“来”も“是”もフォーカスマーカーとして、動作者を提示する際、動作者以外の人を排除するという役割を果たします。話し手が担当者を指定し、それ以外の人を排除する場合は“来”を、一方、話し手が動作者についての間違っただけの情報や認識を訂正し、正しい動作者を示し、間違っただけの動作者を排除する場合は“是”を用います。(9)を通して、両者の違いについての理解を深めましょう。

(9) (夕食を作る時間になって、妻が夫に)

a 今天晚上你来做饭。(今晚あなたが料理を作ってね。)

b 今天晚上是你做饭。(今晚あなたが料理を作る約束だよ。)

例(9)a では、話し手(妻)は“做饭”の担当者を“你”(夫)に指定し、自分を排除しました。(9)b では、“做饭”の担当者が“你”(夫)であることが予め決まっているが、夫は自覚していないとき、話し手(妻)は自分を“做饭”の担当者から排除し夫に責任を果たさせるのです。

このように、“来”“是”はともに動作者に使えるフォーカスマーカーでありながら、決して互換することはできません。このような表現をうまく使えれば、中国語の表現力は一段と高まるでしょう。

我的一天【一日の活動】

絵 張 恢

文 『中国語の環』編集室



起床 qǐ//chuáng

起きる, 起床する

- 睡眠 shuìmián
- 睡觉 shuì//jiào
- 铺盖 pūgai
- 枕头 zhěntou
- 睡衣 shuìyī
- 闹钟 nàozhōng



洗脸 xǐ liǎn

顔を洗う

- 擦脸 cā lián
- 顔を拭く
- 刷牙 shuā yá
- 歯を磨く
- 漱口 shù kǒu
- うがいをする



吃饭 chī fàn

ごはんを食べる

- 早饭 zǎofàn
- 午饭 wǔfàn
- 晚饭 wǎnfàn
- 馒头 mántou
- 面包 miànbāo
- 面条儿 miàntiáor



锻炼身体 duànliàn shēntǐ

体を鍛える

- 做早操 zuò zǎocāo
- 朝の体操をする
- 打太极拳 dǎ tàijíquán
- 太極拳をする
- 跑步 pǎo//bù
- ジョギングをする



骑自行车 qí zìxíngchē

自転車に乗る

- 骑摩托车 qí mótuōchē
- バイクに乗る
- 开汽车 kāi qìchē
- 自動車を運転する
- 坐地铁 zuò dìtiě
- 地下鉄に乗る



打网球 dǎ wǎngqiú

テニスをする

- 踢足球 tī zúqiú
- サッカーをする
- 排球 páiqiú
- 篮球 lánqiú
- 乒乓球 pīngpāngqiú



画画儿 huà huàr

絵を描く

- 画板 huàbǎn ➢画布 huàbù
- 颜色 yánsè ➢油画 yóuhuà
- 国画 guóhuà ➢画家 huàjiā



弹钢琴 tán gāngqín

ピアノを弾く

- 吹笛子 chuī dízi 笛を吹く
- 拉胡琴(儿) lā húqín(r) 胡弓を弾く
- 打鼓 dǎ gǔ 太鼓をたたく



上网 shàng/wǎng

インターネットに接続する

- 电脑 diànnǎo ➢因特网 yīntèwǎng
- 网站 wǎngzhàn ➢网址 wǎngzhǐ
- 主页 zhǔyè ➢E-mail



看书 kàn shū

本を読む

- 看报 kàn bào 新聞を読む
- 报纸 bàozhǐ ➢杂志 zázhì
- 画报 huàbào ➢小说 xiǎoshuō



看电视 kàn diànshì

テレビを見る

- 看电影 kàn diànyǐng 映画を観る
- 听收音机 tīng shōuyīnjī ラジオを聴く
- 打电话 dǎ diànhuà 電話をかける



洗淋浴 xǐ línǚ

シャワーを浴びる

- 洗澡 xǐ/zǎo ふろに入る
- 洗发 xǐ fà 髪を洗う
- 香皂 xiāngzào ➢香波 xiāngbō

訳語のない単語は辞書を引いて調べましょう。

遣唐使も苦勞した中国語の舌の動かししかた

加藤 徹 (明治大学)

日本人の中国語発音学習のキモは舌である。

中国語の声母 (子音) の一覧表を見ると「唇音、舌尖音、舌根音、舌面音、捲舌音、舌歯音」云々とある。b p m f の「唇音」を除きみな「舌」を含む。

中国語の韻母 (母音) のうち、日本人が苦手とする e、ü、er の3つ単母音も、コツは舌だ。初心者は「外から見える口の形」ばかり気にする。本当は「外からは見えない、口のなかの舌の位置と動かししかた」が秘訣だ。特にeは、教科書には「単母音」などと書いてあるせいで、初心者はてっきり「eの発音の最中は舌を動かさない」と思い込む。本当は、eは「単母音の顔をした事実上の複合母音」だ。eは、発音しながら口の中で舌を口の奥にスライドさせつつ、脱力する。この、口の中の舌の動線は、生徒が教員の口元をいくらジューッと見ても、わからない。

「鼻母音」つまり n と ng の区別も、キモは「鼻の穴」ではない。やはり、口のなかの舌の動線だ。le の発音のコツも、zhi chi shi ri のコツも、…もうやめるが、とにかく、日本人の中国語学習者にとっての鬼門は、舌である。

今から1,200年前の遣唐使の時代も、日本人は舌で苦勞した。

日本の書道史上、空海 (くうかい)・嵯峨天皇 (さがてんのう)・橘逸勢 (たちばなのはやなり) の3人を「三筆」と言う。空海と橘逸勢は遣唐使の同期の留学生だった。2人とも804年に唐に渡った。本来は十年以上留学する予定だった。が、2人とも2年で留学を切り上げ、806年に帰国した。空海は中国語の達人で、学ぶべきものを学び尽くした。橘逸勢は中国語の発音で挫折し、将来に見切りをつけた。

空海の詩文集『性霊集』巻5の漢文「為橘学生与本国使啓一首」は、橘逸勢が早期帰国を申請した本国 (日本) 宛ての文章である。趣旨は「中国語会話で挫折しました。このまま留学を続けても無駄です。語学力が貧弱でもマスターできる琴 (きん) と書道は、われながら自信があります。帰国をお認めください」。文中で、

今山川隔両郷之舌、未遑遊槐林。

(いま、山川は両郷の舌を隔て、いまだ槐林に遊ぶにいとまあらず。)

つまり「日本と中国は地理的に遠く、両国の母語は舌の動かししかたが全然ちがうのです。中国語会話ができず、中国の高等教育を受けられません」と弁解した。

ちょっと、橘さん。空海さんは、日本にいたときから努力して中国語をマスターしましたよ。この申請書も、自分で書かずに親友の空海に代筆してもらったとは！世間を甘くみてませんか？

でも、中国語の舌で苦勞したのは、わたしたち後世の中国語学習者もよくわかります。中国語力が貧弱でも、琴や書道など学べる中国文化はある。そんな実例を歴史に残してくださったことには、感謝します。

中国語の形容詞命令文(1)

王 志英 (沖縄大学)

中国語には形容詞そのものによる命令・依頼表現がある。形態的に下記の4種類が挙げられる。

① 裸の形容詞による命令文

快!

② “形容詞+一点儿”, “形容詞+着+ (一点儿)” の形としての命令文

快一点儿。

慢着点儿跑, 别摔着了。

③ 動詞の連用修飾語としての形容詞命令文

快一点儿说。

④ 動詞の補語としての形容詞命令文

说快一点儿。

1. 裸の形容詞による命令文

裸の形容詞による命令文は「場」に対する依存度が高い。動作・行為遂行中と緊急事態の時によく使われる。

踊りを踊っている人に、テンポをゆっくりするよう指示する時、

(1) 慢! 慢! (ゆっくり! ゆっくり!)

命令文における裸の形容詞は本来の意味からずれた用法が見られる。

(2) 慢! 你现在不能走。(待て! あなたは今ここを離れてはいけません。)

(2)は相手の動作・行動を止める時に使われる。“快”も単独で使われる時、元の「早い」という意味ではなく、「急いで」と催促する意味を表す。“慢”, “快”の後に相手の動作・行動を止めたり、催促したりする理由を述べるのが普通である。

(3) 快! 要不来不及了。(急いで、そうでないと間に合わないよ。)

緊急事態の時、裸の形容詞命令文は、話し手が何かを見た、或いは何かに触れた時の気持ちや感触を表現することで、他者へ働きをかける場合もある。

(4) 烫! (熱い!)

(5) 危险! (危ない!)

中国語は童話の世界や魔法をかける場合、ある物、或いは人に対して、話し手の望む通りになってほしい時、裸の形容詞による命令文が使えるようである。例えば、『西遊記』の主人公孫悟空は、金箍棒に、

(6) 大! (大きくなれ!)

(7) 小! (小さくなれ!)

と命令し、変化を求める。また、コップの水に魔法をかける場合もある。

(8) 甜! (甘くなれ!)

一人よりみんなと勉強したほうがいい

津島 類

ぼくは、現在中学2年生です。小学5年生で準4級を合格し、6年生の11月に4級に合格しました！ぼくが4級を受験しようと思った理由は、準4級に合格した時のうれしい気持ちがあったからです。

4級の勉強は準4級の勉強よりおそらく10倍以上はしたと思います。単語を覚える時はノートに何回も何回も発音しながら書きました。発音することと書くことが、合格するコツだと思います。

そして、ぼくがもう一つ頑張ったことは、中国語を人前で発音することです。昨年、中国語のスピーチコンテストに2回出場しました。1回目に参加したコンテストでは、日本語で文章を考えて、それを中国語に訳した文章を読むというものでした。タイトルは「ぼくに中国語の面白さを教えてくれた友達と先生」で、中国語の先生と一緒にいった「カラOK」（カラオケ）や台湾の友達と月餅作りをしたことや、「烧烤」（バーベキュー）をしたことについて書きました。スピーチコンテストは暗唱しなければならないので覚えるしかありません。特に難しかったのはピンインです。まだ習っていない単語や難しい発音があったので、完璧に読めるまでには長い道のりがありました。そして当日、ぼくはとても緊張していましたが、発表の時には緊張を忘れて、発表のことだけに集中して、頭の中に浮かんだ台本を読みました。意外にすらすらと読むことができました。そして、なんとぼくは「審査員特別賞」に選ばれました！頑張った甲斐があったと思いました。

2回目のコンテストでは朗読部門に出場しました。何回も何回も声に出して練習しました。ステージに立つと、少し緊張感があったからか、自己紹介を言うのを忘れていました。しかし、最後まで踏ん張ってすらすら発表することができました。そして、「総領事館賞」に選ばれました。その時の達成感はずごかったです。どちらのコンテストも小学生はあまりいませんでした。そして、どちらでも、ほかの参加者の人からほめられ、ぼくはとても自信ができました。だから、ぼくみたいな小学生の子がいたら、今度はぼくがほめてあげたいと思いました。

この文章には、スピーチコンテストのことをたくさん書きました。一見すると中検とあまり関係ないと思うかもしれませんが、しかし、とても関係あるのです。一人で机に向かって一生懸命勉強するのも良いですが、スピーチコンテストに出場すると、自分と同じように頑張っている人の姿を見ることになります。そうやって、ほかの人がどうやって勉強しているかを見ることはとても意味があると思います。だから、これからもスピーチコンテストなどに参加して中国語を勉強していきたいと思います。3級は難しいと思います。でも、受かった時には頑張った分だけうれしい気持ちになるので、3級を受けるために頑張ります！